

乳幼児保護条例、請願への歩み

岡田メモ：幼児保護条例について（幼い子を守る活動）

乳幼児を不慮の事故から守るため、保護者の注意を喚起しなければと思ひ、SNK 理事会に諮ったところ全員の賛同を得たので、昨年5月の「新人歓迎会・会員交流会」で参加の皆さまに請願の趣旨を説明したところ大勢のみなさんから署名をいただき、意を強くする。

念のため法務省や厚労省に問い合わせたところ両省からわが国には「乳幼児保護法」はなく、またこれを条例化している自治体もない、との回答を得た。残念だが、これが日本の現実である、…ということを確認した。先進各国の法令内容を調査する必要から、米、加、豪、英、仏、独およびシンガポールの各国に協力を依頼した。不文律の英国を除き、6カ国から関連法規の提供があり、共通項は「保護者は乳幼児の安全を守らなければならない。室内や車内に放置してはならない。違反者は罰せられる」とある。当り前の規定だが、これが日本にはない。

各理事と5月に降延べ5回勉強会を行い情報と意見を交換し、完成度の高い請願を目指す。うち2回は市会議員2氏にも参加願ひ、意見を交換し、請願の内容を検討した。（理事 岡田哲也）



荒木農園の収穫祭に招待した幼児たち安全で安心に、元気に育つ権利がある

メーリングリスト委員会から

第11回 電子メールの『署名』について

往復ハガキの返信が届きました。住所氏名欄にはただ『りこていん』とだけあります。そんな名前の人はいません。消印や筆跡から謎を解き明かすことが大好きな少数の人を除き、多くは誰の出欠票か分からず困惑することになります。

電子メールの場合には、差出人(From:)は自動的に設定しているメールアドレスとなります。日本の企業人のメールアドレスは『氏名@会社名.co.jp』のように、それだけでどこの誰だか分かるようになっていることも多いのですが、電子メールがこの世に登場したときには匿名性が重視されてか、意味のないアルファベットや数字の羅列が多かったのです。

しかも、最近のメールソフトでは氏名などを設定しておけば、それもメールアドレスとともに差出人の情報として送られますが、当初はメールアドレスだけでした。

オフ会の出欠を問うメールの返信に、つい名を名乗ることを忘れてしまうと『誰のメール?』と幹事は問い合わせなくてはならなかったのです。(問い合わせることができるだけハガキよりマシですが)そこで考え出されたのが自動的にメールの最後に名前を入れる仕組みでした。これが自動『署名』の起源です。

デジタル署名というものがありますが、これはメールの改竄がないことを証明する仕組みで、メールソフトは正しいメールか認証局にいちいち問い合わせるため、表示に時間がかかります。書留や内容証明付き郵便のようなもので必要な場面は限られます。

(委員長 和田豊郁)

教育支援グループから

「落ちこぼれの子どもをなくそう」教育支援お助けマンとして先生たちを補助しています。「ここが分からない」という子どもたちに、もう少しで分かる「ヒント」を与えます」と「分かったよ」と嬉しそうな笑顔が返ってきます。



京町小学校三年一組の個人用BOX、私物のランドセルやいろいろ、子どもたちは片付けないのは苦手。掃除の時間もあんまり好きではない。先生に叱られるが皆仲良しだ。

(あとがき) 筑後平野も正月以降なんか雪が降った。厳しい寒さに、餌を求めて鳥たちも野菜畑に集まり、スナックエンドウは新芽を食べられた。鳥も生きるため必死だ。(武)

荒木農園から報告



春菊・ホウレンソウ・ニンジン・ダイコン・サトイモ・白菜など作りました。追肥が不足してホウレンソウが赤茶けるといふ失敗があります。残念なのは白菜がヒヨドリさんに食べられる事件です。農園で作物を育てながらゆの字菜園師範の指導を受けて野菜作りの名人を目指しています。現在、農園では春野菜の準備中です。梅が咲き、椿が美しく咲いています。茶室も準備中です。(チーフ 川畑昭夫)



編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 今津一躬
久留米市荘島町13-1
TEL 0942-46-2277

「みんなが住みたくなる町」



筑後平野と耳納山群からなる久留米は、柳川街道と日田街道の交わる要衝の地である。この地域には古墳時代の遺跡や国衙を設けた歴史遺構が多く残されて昔の鼓動を今に伝えている。また、筑紫次郎の名をもつ筑後川は、治水を繰り返す、四季それぞれの景観を見せてきた。この環境から、青木繁、坂本繁二郎など数多くの芸術家が輩出した。そして、秀でた技術でゴム産業を興した。しかし、時代も移り人も町も変わった。

1・

社会不安の中で孤立する老人世帯、就職活動を諦めた青年、閉じこもり人生を生きる子どもたち、多くの困難を背負って生きるには、個人の努力では限界がある。制度や助け合い基金など具体的な施策も見直し、孤立した人たちをつなぐ地域の大きなネットワークを検討すべきである。

NPO ボランティア組織は増え、社会貢献活動は定着しつつあるものの、未だ数も力も絶対量が足りない。地域で進める社会貢献は、学校、自治会、子ども会、老人会を横断的に結ぶ組織が必要である。かつて、地域では人が集まり顔を寄せ合い話し合いによる井戸端（会議）と呼ぶ問題解決の方法をもっていた。IT 情報化の時代にあつて、ホームページ、ブログ、ツイッター、など新しい井戸端会議の環境は既に整っている。

2・

「こんな町に住みたい」地域社会を考える。TV では、老老介護に疲れた心中事件、育児放棄の母親の犯罪が放映され、同じ裏番組で食い放題を大笑いにして見せる。少子高齢化社会がもたらした人の哀れと、飽食日本の食い物事情が作る狂った社会、子どもが虐待されいじめが常態化する社会とは、『われわれは何処から来て、何処へ行こうとしているのか?』ゴーギャンが放った問いを、「我々は何者なのか?人は一人で生きていけるのか?」と問い直さねばならない。商店街が無くなり地域が過疎化するという現実、車の無い買い物難民はタクシーで週1度の買い出しに出かけねばならない。町が荒廃していく。

3・

自転車で行ける距離に欲しいものは、先ず「日常の買い物をする店」そして「通りで見るファッション」「音楽が聴けるコーヒーショップ」「新刊本の並ぶ本屋」などである。町を歩けば何か得たような気持ちになり「今風井戸端サロン」で会話を楽しむ。ここへ来ればすべて用事を済ませることができるコンパクトな場所、そこで活力を取り戻した隣人たちは上手に歳をとるだろう。

しかし世の中を見れば、歳の取り方を知らないわがままな老人が増えた、という事実気付く。老人は孤独になるから人生を面白がる余裕が欲しいし、死ぬまで働く力と老いや病気に慣れ親しむ力も欲しい。また、経験豊かなシニアに求められるのは、大きな神様の目を持つことである。地域に住むシニアに大事なものは、自立した老人になることである。（広報紙編集長 一ノ瀬尚文）

シニアネット久留米、草創の時代 1997~1998~1999年 ⇒NPO登録準備まで

特集 シニアネットの草創期 高齢者こそインターネットで世界をリード

「私達はSNKの12年の歴史をSNKホームページにUPする、企画に取り組んでいます。この特集はSNK草創期の歴史を取り上げています。皆さんの声を編集局にお寄せください。
(資料、活動の記録は島井、長谷部両氏のHPより見直しています。)
参考：広報 Vol.20 2008.10.22 発行：特集 SNK10年史

1997年

SNK誕生前の時代、名称はシニアネット研究会・事務局は東和町のエースーケンに設置後にSIP(シニア情報センター)を、事務局は六ツ門に作る。当時の役員は理念は「シニア自らが楽しみながら持てる経験や知識を生かし、貢献していく」先駆者として、インターネットを通じシニアの生きがい作り、仲間作りを進めた。

エピソード1 (島井新一郎さん)

ネットで仲間づくりを考えていたとき、同じことを考えている古賀さんたちと意気投合したのが始まり、活気がありました、ワイワイむんむん勃興の時代です。

エピソード2 (須佐卓郎さん)

広報紙を担当した、出版社や新聞関係の若い人がいて、あれよあれよという間にどんどん作業は進んだ。懐かしいねー、私は仕事も忙しく音楽ばかり聴いていました。

エピソード3 (名島八郎さん)

未だインターネットが珍しく、仲間と集まっては勉強に励み知識欲を満たした。パソコンは13インチのノートを持っていて30万円と高価だった。

エピソード4 (廣津芳信さん)

久留米の歴史や文化を写真撮りするので忙しかった。善導寺や大善寺へ自転車に乗って古墳を調べ回っていた。現在ほど忙しくなく、楽しんでいた。

エピソード5 (今津一躬さん)

当時は随分お若いんですね。個性ある方々が思い思いに活動され貢献されました。SNKに対する「思い」が少しづつ、段々と見えてきた時期でもありました。

エピソード6 (長谷部友成さん)

マックを愛用していたがウインドウズへ、PCハードの組立てに挑戦、当時の猛勉強は私の知識となり現在に活かされている。今、思い出すと楽しいものです。

当時シニアネット研究会の役員
代表 島井新一郎
事務局長 古賀直樹
広報出版委員長 須佐卓郎
ホームページ委員長 野口喜好
パソコン教室委員長 渡辺正義

- (備考)
- 1: 1997年8月 研究会発足当時の役員
1998年4月 シニアネット久留米発足
 - 2: NPOとして登録するのは2000年以降
 - 3: 設立時に関わる古賀さんは現在、事業に専念
同じ立役者の菊池徹さん(第1次南極観測隊メンバーで樺太犬…タロ、ジロの物語で有名)はカナダに住まわれている。
 - 4: 野口、渡辺の両氏は逝去されました

西日本新聞(筑後版)1998.9.8付は「高齢者の生き甲斐や仲間づくりを支援するNPOシニアネット久留米は日頃の活動を伝える広報紙を創刊した」の記事で紹介した。

1998~99年



↑写真 1999年：システムクリエイト制作「もっと元気にもっとたのしく！」
「パソコン、介護、自然食品、からフラダンスまで、バラエティ豊かな、高齢者の活動を紹介できたと思う。それにしてもつくづく感じたのは、人の生命力のたくましさである。人に活動の目的や生きがいがあれば年齢や…あとがきより(1998年書院)
←写真 1998年当時の取材に応じて集まった人たち、左から島井さん、須佐さん、名島さん、廣津さん、今津さん

⇒広報紙「SNKニュース創刊号」を1998.12.1発行した。インターネットの利便と機能を活用しようとする人たちが集まった。青年の気概で臨むシニアたちは手際よくその能力を分担して熱気の中で組織化を進めた。当時の困難や苦勞をエピソードとして語る皆さんは、創る時代の面白さと楽しさを「今は昔」のこととして話してくれました。感慨のそこには「若かったな、今だったらもっと…」絶句。

シニアネット久留米ニュース 創刊号

SENIOR NET KURUME NEWS

編集・発行 シニアネット久留米
広報出版委員会
久留米東和町3-3 エースーケン内
TEL 0942-36-1401

SHINICHIRO SHIMAI MESSAGE

高齢者こそインターネットを!

かつて経験したことのない高齢化社会がやってきます。高度経済成長時代や、バブル崩壊の平成不況など、激動の時代を生きている間は、年をとって引退したら何をしようかなど考える余裕もない生活をしてきたというのが実感だと思えます。

ところが、定年という人生の区切りは、ほとんどの人に否応なしにやってきます。幸いにして、第二の職場を見つけられた人、たくさんの趣味を持って待ちに待った定年!と、喜べる人は幸いです。

しかし、ほとんどの人は、定年が現実のものとなったとき、いったい自分は何をしてこれからの数十年を生きていこうかと悩むのだらう?と、考え込まれるのではないのでしょうか。

そういうあなたこそ、インターネットをやるべきです。インターネットは、ちょっとしたハードルさえ越えれば、無限の新しい世界へ飛び込める現代の魔法の道具といえます。この素晴らしい世界への入門のお手伝いをしようというのが私たち「シニアネット久留米」(SNK)です。

パソコンなんて、ちょっと手ほどきさえ受ければ簡単に使いこなせる玩具と同じです。時間と資金に余裕のある高齢者こそ、この現代の魔法の杖を使うべきです。

「シニアネット久留米」では初心者のためのパソコン教室や、仲間づくりのグループ、趣味のグループなど、定年後を楽しく、元気に過ごすためのいろんな活動を行っています。パソコンアレルギーで躊躇しているあなたも、一度「シニアネット久留米」のメンバーに話を聞いてみませんか?

シニアネット久留米
代表 島井新一郎

認知症対応型共同生活介護事業

グループホーム つつじ苑

御井つつじ苑 国分つつじ苑

介護保健事業所番号 4071600912 介護保健事業所番号 4071601258

主催 (株)ポップツアー
登録旅行業第484号
旅行取り扱い

株式会社 ポップツアー九州

〒810-0001福岡市中央区天神4-1-18 サンビル2F
TEL 092-739-0366 FAX 092-739-0363
URL: <http://www.poptour.net>
E-mail: info@poptour.net